

先日、本展出品作家である、田沼武能（たぬま たけよし）さんにお越しいただき、記念講演会を開催しました。「あの時写真家たちが見たもの」というタイトルが付けられた講演会では、田沼さんご自身の当時のことから、今回出品作家の方々の活動までお話いただきました。



↑田沼武能さん

色々なエピソードをお話いただきましたが、中でも興味深かったのが土門さんとの初めての出会いの場面です。

田沼さんが、土門さんの助手をしていたサンニュースの先輩の人と土門さんのお宅へと遊びに行き、2階の書斎でコンタクトプリントを見ていたところに、土門さんが帰宅。その様子を見た土門さんは、仁王立ちになり顔を真っ赤にしたそうです。当時、田沼さんは木村伊兵衛さんの助手をしていたこともあり、スパイと思われて当然だったようですが、怒鳴るようなことはなく、その後、お茶を出されたそうです。

そこでは、土門さんとその助手がいる中、木村さんの現像で使っている現像液の種類や時間などの暗室での処理を詳しく聞かれたそうです。スパイをしに土門さんの所へ行ったわけではないですが、逆に

木村さんの仕事を聞かれるかたちとなってしまったみたいです。しかし、このことについて木村さんが怒るようなことはなく、それ以来土門さんにも可愛がってもらった、と話してくれました。



↑会場風景(スクリーンに映っているのは、1949年に浅草国際劇場屋上で撮影された田沼さんの《SKDの踊り子》です。)

そのほかにも、色々な話を聞くことができました。田沼さんから、当時の様子を生の声で聞いたことは、大変興味深く勉強にもなり、また、聴講者からの質問にも丁寧に答えられ、有意義な講演会となりました。

(RK)